

平成30年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール 表彰者一覧表（九州農政局関係）

1 農林水産大臣賞

市 町 村 名	応募者氏名 （団体等名）	タイトル	部門
鹿児島県鹿児島市	有限会社かごしま有機生産組合 代表 大和田 世志人	～未来を拓く有機専門農家集団をめ ざして～	有機農業・環 境保全型農業

2 生産局長賞

市 町 村 名	応募者氏名 （団体等名）	タイトル	部門
大分県竹田市	大分県立三重総合高等学校 久住校	農業生産工程管理を通じた未来の 農業人材の育成	GAP

3 九州農政局長賞

市 町 村 名	応募者氏名 （団体等名）	タイトル	部門
熊本県熊本市	有限会社土の文化ファーム 代表取締役 田中 穂積	GLOBALG.A.P 導入による農業経営の改 善および安全で持続可能な農業の確立	GAP
大分県臼杵市	株式会社 ohana 本舗 代表取締役社長 赤嶺 祐司	人と野菜をつないでいく	有機農業・環境 保全型農業
長崎県南島原市	近藤 正明	地域の仲間とつなぐ環境にやさし い農業	有機農業・環境 保全型農業

有限会社 かごしま有機生産組合

有機農業・環境
保全型農業部門

農林水産大臣賞

法人名：有限会社かごしま有機生産組合
所在地：鹿児島県鹿児島市

面積：275ha
構成員：162名
栽培品目：有機野菜、果樹、茶等
約120品目

取組の紹介

【面積拡大に向けた取組】

- 1984年に有機農業を志す10名の農家で8haの面積からスタートしたところから、毎年2回の技術研修会、勉強会の開催、年間10～20回に及ぶ品目部会、現地検討会を続けることで、県内全域162名、275haまで面積拡大。



ほ場での勉強会の様子

【地域内外で連携した安定出荷の取組】

- 組合の会員、162名が有機野菜、果樹、茶、米、雑穀等の120品目以上を栽培。共同出荷に取り組んでおり、年間を通じて、常時20品目以上を卸、小売（スーパー・量販店）での有機農産物コーナー、直売の地球畑）、インターネットを通じて全国に安定的に供給。



加工品の開発

【販路の確保に向けた取組】

- 4年前から、ジュース、ドレッシング、ベビーフード、ベジソースなどの加工品の開発・販売に取り組むとともに、昨年度より海外事業部を開設し、輸出に向けた取組を実施している。

【生産工程の見える化の取組】

- 102戸の有機JAS認証取得に加え、未取得の者に対しても自主的に生産工程記録管理の徹底に取り組んでいる。



(有) かごしま有機生産組合

HP・SNS等

HP：<http://www.chikyubatake.jp>

大分県立三重総合 高等学校久住校

G A P 部門

生産局長賞

団 体 名：大分県立三重総合高等学校久住校
所 在 地：大分県竹田市
認 証：ASIAGAP（平成 30 年 12 月）
応募区分：人材育成の部

面 積：0.2ha
構 成 員：一
栽培品目：カリフラワー、キャベツ、
きゅうり、ごぼう 等

取組の紹介

○ これまで実践してきた、「環境保全型農業」から一歩踏み出し「安全で安心な農産物生産」を目指す為、GAPの取組を導入（JGAP：平成 24 年 11 月取得）。

○ 全生徒が、GAPを学習できるカリキュラムを組み入れ、GAP認証審査を生徒中心で対応。

○ 継続的なGAPの取組は、県下の農業系高校に大きな影響を与え、平成 32 年度までに、全ての農業系高校でJGAP認証を取得予定。

また、GAPを学んだ卒業生が中心となり、進学先の大分県立農業大学校において、全国で一番早くJGAP認証を取得するなど、教育機関へのGAPの普及に貢献。

○ インターネットを活用し、GAPの取組を県内外へ、広く発信。

○ 宮崎大学や県内GAP認証農業者等の講師を招いた講義・講演会を実施するとともに、青果物以外のGAP認証取得に向けて取組を強化。



ASIAGAP認証取得(生徒)



生徒を中心とした審査対応



研修の様子

HP・SNS等

<http://kou.oita-ed.jp/kujyuu/>

<https://ja-jp.facebook.com/miesougoukujyuu/>

氏 名：有限会社 土の文化ファーム
所在地：熊本県熊本市
認 証：GLOBALG. A. P.
応募区分：個人経営の部

面 積：2.2ha
構 成 員：－
栽培品目：ミニトマト、ナス、ニンジン、
大根、カラフラワー

取組の紹介

- 消費者へ安全でおいしく、栄養価の高い作物を提供したいとの思いから、食品安全・労働環境・環境保全の国際基準を満たした生産を行っていることを証明するためグローバルGAPを取得。(H30.5月)
- GAP認証の取得が取引先からの信頼性や透明性の確保につながり、ミニトマトの取引量が前年より約15トン増加。
- 統合環境制御機器や養液栽培装置の活用及びICTシステム(タブレット等)の利用による作業効率化で残業等の労働時間を削減し、アルバイト等の人件費がGAP認証取得前より22%減少。
- 作業力量表により従業員の作業スキルを「見える化」し、スキルに合わせた作業を行わせることで農作業事故を防止。
- GAP導入を契機に環境保全につながるIPMの各種取組みを本格的に開始し、化学農薬の散布を抑えた環境負荷が少なく持続可能な農業を実践。
また、IPM推進につながる防虫機能を備えた防風ネット等の技術を地域へ普及。

HP・SNS等

有限会社 土の文化ファーム
HP <http://tsuchinobunka.jp/>



(有) 土の文化ファーム



環境制御機器およびICTシステムの活用



IPMの取組

氏 名：株式会社 ohana 本舗

所在地：大分県臼杵市

応募区分：個人経営の部

面 積：8.5ha

栽培品目：約 40 品目

(サラダ葉野菜、根菜類、果菜類)

取組の紹介

【効率的な生産に向けた取組】

- 栽培品目約 40 品目(有機 JAS 認証取得面積 7.8ha)について綿密な栽培計画を立て、随時見直ししながら、効率的な作業や安定した出荷となるよう取り組んでいる。



ohana 本舗の圃場

【生産工程の見える化等の取組】

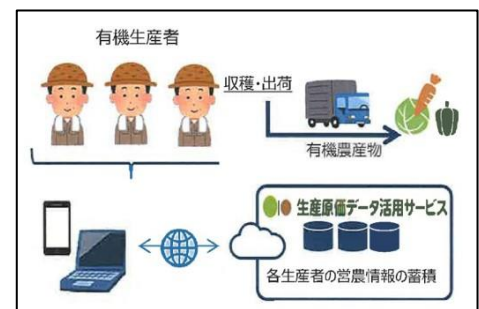
- NEC の生産管理システムを導入し、パソコンやスマートフォンで圃場毎に作業記録を入力することで、作業の進捗や管理状況を把握している。



生産管理システム

【地域内外で連携した安定出荷の取組】

- 県内の有機農業者と共同出荷グループを構成し、有機 JAS 小分け認証を取得。NEC のシステムを導入し構成農家の生産出荷計画を一元管理し、分荷や代金決済の機能も担うことで、構成農家の生産から販売まで一貫して管理出来る体制を構築し、大口需要や顧客ニーズに応じた商品を提供し、安定出荷及び経営の安定化につなげる取組を行っている。



共同出荷グループの体制

【地域内外への波及に向けた取組】

- 新規有機農業者に対し作付け体系の助言や技術指導を行い、有機 JAS 認証取得を支援している。また、おおいた有機農業推進ネットワークの役員を務め、県内の先進有機農業者と連携し、PR イベントや新規就農者向けの養成講座を開催している。



有機農業者養成講座

HP・SNS 等

HP：<https://www.ohana-honpo.com/>

近 藤 正 明

有機農業・環境
保全型農業部門

九州農政局長賞

氏 名：近 藤 正 明
所在地：長崎県南島原市
応募区分：人材育成の部

面 積：1.3ha

栽培品目：温州みかん、ぶどう
水稲

取組の紹介

【効率的な生産に向けた取組】

- 有機農業の先進的な技術を導入するため、有機農業実践集団などで構成する有機農業の全国団体での活動にも参加し、有機農業に先進的に取り組む講師を招いて研修会の開催。

【販路の確保に向けた取組】

- 消費者との対話をもとに、顔の見える関係を築くことを最も重要視している。消費者とのほ場見学や意見交換会等を実施し交流活動を充実することにより、消費者に有機・特別栽培の実践が食の安全、環境保全に有効であると理解促進図っている。

【地域のリーダーとしての活動】

- 長崎県内では有機農業者が一堂に会する機会がなく、以前から意見交換を行う場が求められていた。平成 27 年度に設立された「長崎県有機農業ネットワーク」で、当初から会長として研修会の開催、交流会を通じ県内の有機農業者の連携に参加。

【人材育成活動】

- 地域の農業従事者の減少に伴う担い手農業者の確保のため、短期的なホームステイにより農業体験の受け入れや有機・特別栽培技術の指導等により自ら自立までの支援を実施。



長崎有機農業研究会 消費者交流会



南島原市有機農業推進協議会 研修会



長崎県有機農業ネットワーク 意見交換会